

★最新介護医療情報★

新ワクチン「秋にも提供」 モデルナ、オミクロン対応

(共同通信社 2022.5.30 配信)

新型コロナウイルスワクチンを手がける米モデルナのポール・バートン最高医療責任者(CMO)が27日、都内で共同通信社の取材に応じ「**オミクロン株に対応した新しいワクチンを秋にも提供できるよう準備を進めている**」と明らかにした。

新ワクチンは、従来品にオミクロン株に特化した成分を合わせたもの。6月に臨床試験のデータが公表される予定で「**有効性が確認された。(日本で今月、新設された)緊急承認制度を使って早期に届けたい**」と話した。

医療現場でモデルナ製ワクチンが余って廃棄されている問題について「心が痛む」と言及。「副反応はほとんどが1週間以内に消える一時的なもの。多くの人に打ってほしい」と述べた。

現在、モデルナ製の1、2回目の接種は12歳以上が対象だが、**今後、生後6カ月～11歳の子どもにも使えるよう、関係当局と承認申請に向けた協議をする方針**という。

また、欧州を中心に患者の報告が相次ぐ感染症「サル痘」のワクチン開発に着手したといい「**需要があるか見極めた上で開発を進めたい**」と話した。

エイズウイルス(HIV)のワクチンについても「**約2年で患者に届けたいと思っている**」と述べた。

塩野義コロナ飲み薬審議へ 6月下旬、緊急承認も検討

(共同通信社 2022.6.7 配信)

塩野義製薬が開発した新型コロナウイルス感染症の飲み薬を巡り、厚生労働省が6月下旬にも専門部会を開き、薬事承認の可否を審議することが6日、関係者への取材で分かった。改正医薬品医療機器法で5月に導入された「**緊急承認制度**」の適用も検討する。

厚労省が緊急承認すれば制度の初適用となる見通し。国産初の新型コロナに特化した治療薬となるが、有効性を示すデータが不十分との声もあり、承認されるかどうか不透明だ。

塩野義は2月、厚労省に承認申請し、迅速な審査が可能な「**条件付き早期承認制度**」の適用を求めている。その後、緊急時に限り、臨床試験(治験)の完了前でも有効性があると推定されれば実用化できる緊急承認制度が始まり、同社は適用に意欲を見せていた。

同社が2月に公表した治験の結果では、投与によりウイルス量が減少したが、発熱や吐き気など12症状の改善状況の総合評価では、偽薬を服用した場合と明確な差は出なかった。一方でオミクロン株感染に特徴的な喉の痛みや息切れなどの呼吸器症状では改善が見られたとしている。

後藤茂之厚労相は3月、承認されれば100万人分を購入することで塩野義と基本合意したと明らかにしていた。

